

甦る書院

～玉川の歴史を後世へ～

平成 25 年(2013)、世田谷区では初めての区立の回遊式日本庭園・帰真園を建設しました。庭園は「日本の空間文化の創造と伝承」をコンセプトに世田谷の風土や自然環境をモチーフに作庭され、その一つとして旧清水邸書院が配置されています。

旧清水邸書院の移築復元工事は、清水建設株式会社社会貢献事業の一環として取り組み、設計・施工費用を含めご協力いただきました。また、建設においては伝統建築文化の継承を念頭に、耐震補強や細部にわたる検討を加え復元にご尽力いただきました。

創建から移築までの様々な歴史を踏まえ、今後は地域の歴史と文化を伝承する建物として、また区民の貴重な財産として末永く二子玉川の地で守り伝えられていきます。



書院の部材は全体の約6割が残存していました。不足していた梁や小屋組の部材、瓦や建具などは新材で補っています。幸いにも内装材は当初の部材が多く残っていたため、解体前の様子を復元することができました。

内部は十一畳の「書院の間」と長五畳の「次の間」からなる小規模な間取りです。



床構えを構成する、床脇の金襴・天袋、付書院の板欄間は写真から復元し、制作しました。

床脇に立て込まれている襖は、金箔地に葛と藤が描かれている華やかなものでした。天袋の引き違いの襖はそれぞれ2枚ずつ色紙が貼られ、萩・水鳥・柳・蝶の絵が描かれていました。そして、付書院の板欄間は桐の柾目板に菊華流水の絵柄を描いたものでした。

この他、建具や天井板など傷みの激しいものも多くありましたが、解体時の少ない記録写真を元に細部まで忠実に復元しています。

伝統の和風建築

～受け継がれる技術～

「書院の間」中央に下がる照明器具は、写真を元に制作した復元品です。

「書院の間」の格天井(ごうてんじょう)の格縁(ごうぶち)、床框、「次の間」の火灯窓(かどうまど)は黒漆仕上げです。塗装が剥がれている部分を塗りなおし、漆仕上げの美しさが甦りました。



区登録有形文化財

「旧清水家住宅書院」

旧清水邸書院は文化財的価値が認められ、平成 25 年 3 月 29 日に区登録有形文化財に登録されました。登録名称は「旧清水家住宅書院」ですが、新築した玄関や台所を含め、庭園内では「旧清水邸書院」と呼んでいます。

近代和風建築の特徴をよく残す建物であること。明治末から昭和初期にかけて、国分寺崖線に沿って多く存在した別邸の建造物として希少であり、地域を特徴付けた歴史的な価値などが評価されました。

